

上海府地域 住民アンケート 分析レポート

～結果から何ができてくるか？～

平成29年12月

NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

上海府地域

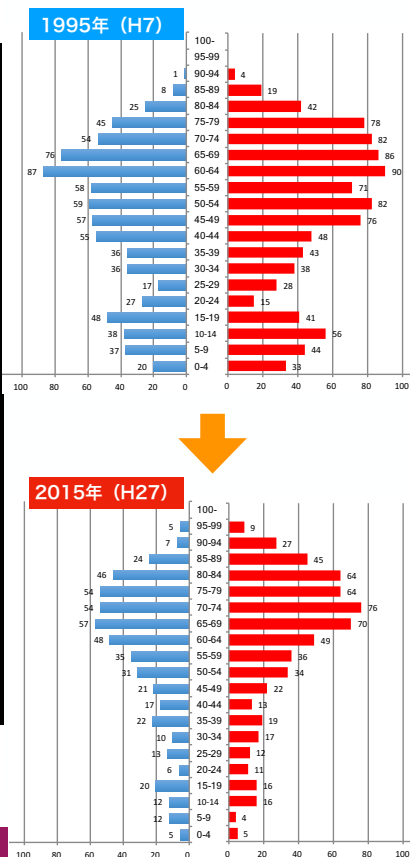
国勢調査データから見る過去20年間の人口推移

	← 国勢調査データ →				独自推計値	
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年※
総人口 (人)	1,760	1,604	1,414	1,246	1,108	932
	20年間で37.0%減少				▲ 176	
0～14歳 (人)	228	166	107	79	54	29
	20年間で76.3%減少				▲ 25	
15～64歳 (人)	1,012	859	716	564	452	355
	20年間で55.3%減少				▲ 97	
65歳～ (人)	520	579	591	603	602	548
	20年間で15.8%増加				▲ 54	
高齢化率	29.55%	36.10%	41.80%	48.39%	54.33%	58.80%
(再掲) 75歳～ (人)	222	267	311	343	345	334
(再掲) 85歳～ (人)	32	59	83	109	117	119

※国勢調査データを基に都岐沙羅パートナーズセンターが独自に推計した数値

(参考) 2015年の高齢化率 新潟県平均：29.85%／全国平均：26.63%

上海府地域の人口ピラミッドの推移

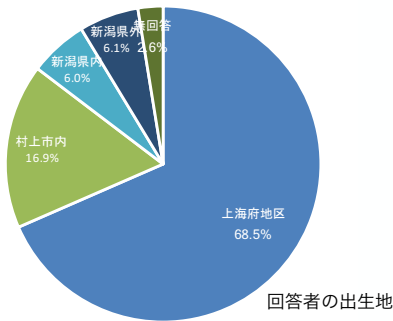


上海府地域は著しく少子高齢化が進展している！

中学生以上の全住民アンケートの実施

【上海府地域】

配布数：966通
回収数：818通
回収率：**84.7%**




かなりの高回収率！
↓
地域住民の意向がしっかりと
反映されているデータである

上海府地区 まちづくりアンケート

～皆さんの声をお聞かせください～

上海府地区では、地域で暮らす皆さんから、日頃思っていることやご意見をお聞きし、みんなで地域を元気にする取り組みを検討していくため、中学生以上全員を対象としたアンケートを行うことにしました。「おら、わがみねえ」なんて言わずに、思っていることをそのままお聞かせください。

*回答は無記名でお願います。
*回答の集計は、個人を特定しない形で集計し、上海府地区の地域づくりを考える基礎データとしてのみ利用します。
*アンケート用紙は、一人ひとり封をして提出していただきますので、家族で意見が違っても構いません。思ったことをそのまま回答してください。



問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。

(年齢)	1. 12～19歳	2. 20～29歳	3. 30～39歳	4. 40～49歳
	5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70～79歳	8. 80歳以上
(性別)	男性	女性		

問2 あなたの生まれたところはどこですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 上海府地区	2. 村上市内 (上海府地区を除く)	3. 新潟県内	4. 新潟県外
----------	--------------------	---------	---------

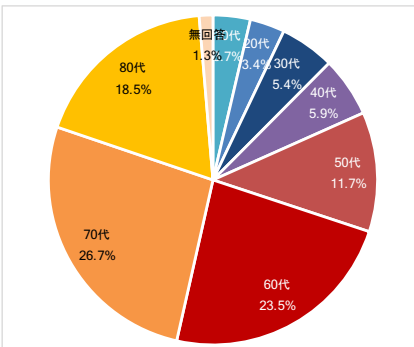
問3 あなたの仕事にあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 農業	2. 林業	3. 漁業
4. 自営業	5. 会社員	6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト	8. 専業主婦(夫)	9. 中学生
10. 高校生・高専生	11. 大学生・短大生・専門学校生	
12. その他()	13. 無職	

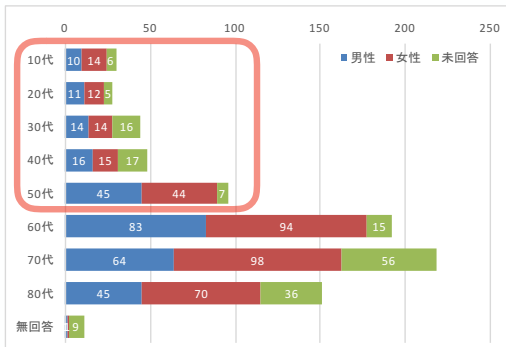
1

回答者属性

回答者属性（年代別）



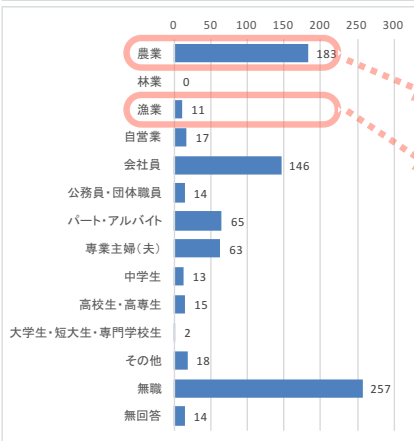
回答者属性（年代別×男女別）



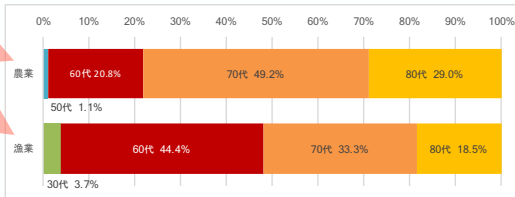
若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。



世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！



農業・漁業従事者（兼業含む）の年代構成（割合）



農業従事者の**98.9%**
漁業従事者の**96.3%**が**60代以上**

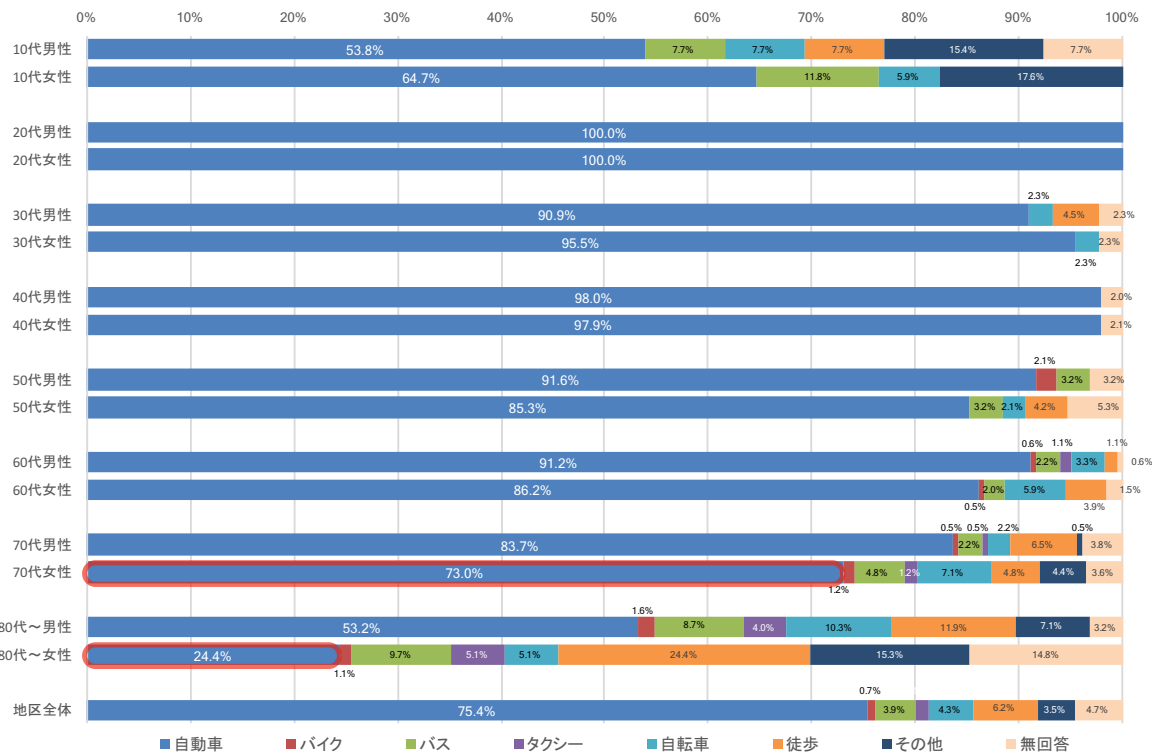
継業への着手は待った無し!!

農業・漁業従事者の年代構成（人数）

年代	農業	漁業
10代	0	0
20代	0	0
30代	0	1
40代	0	0
50代	2	0
60代	38	12
70代	90	9
80代	53	5
計	183	27

回答者属性（職業）

年代別・男女別の日常的な交通手段



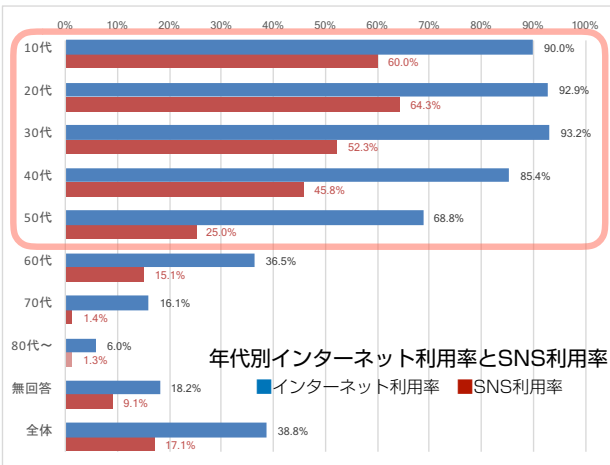
日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する

80代になると車を運転する人の割合が減少 (特に女性)
 (70代→80代: 男性30.5%↓、女性48.6%↓)

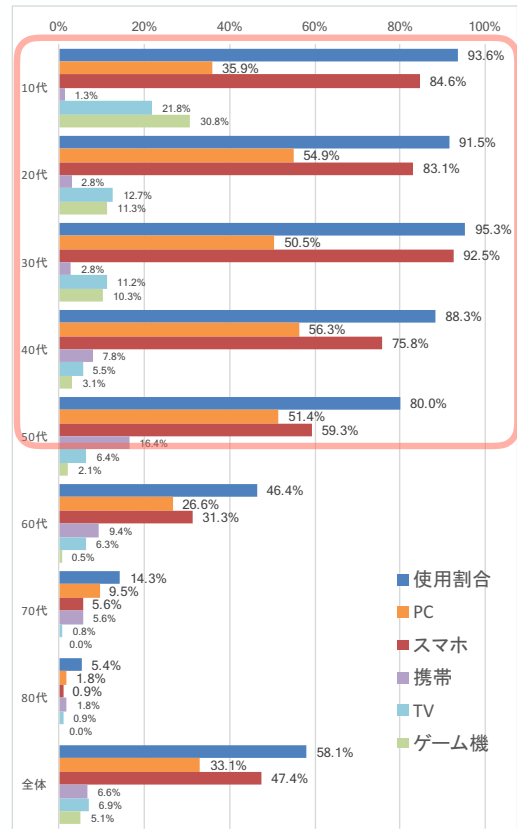
(要確認) 80代女性の運転免許保有率

インターネットの利用割合

年代別インターネットの利用率



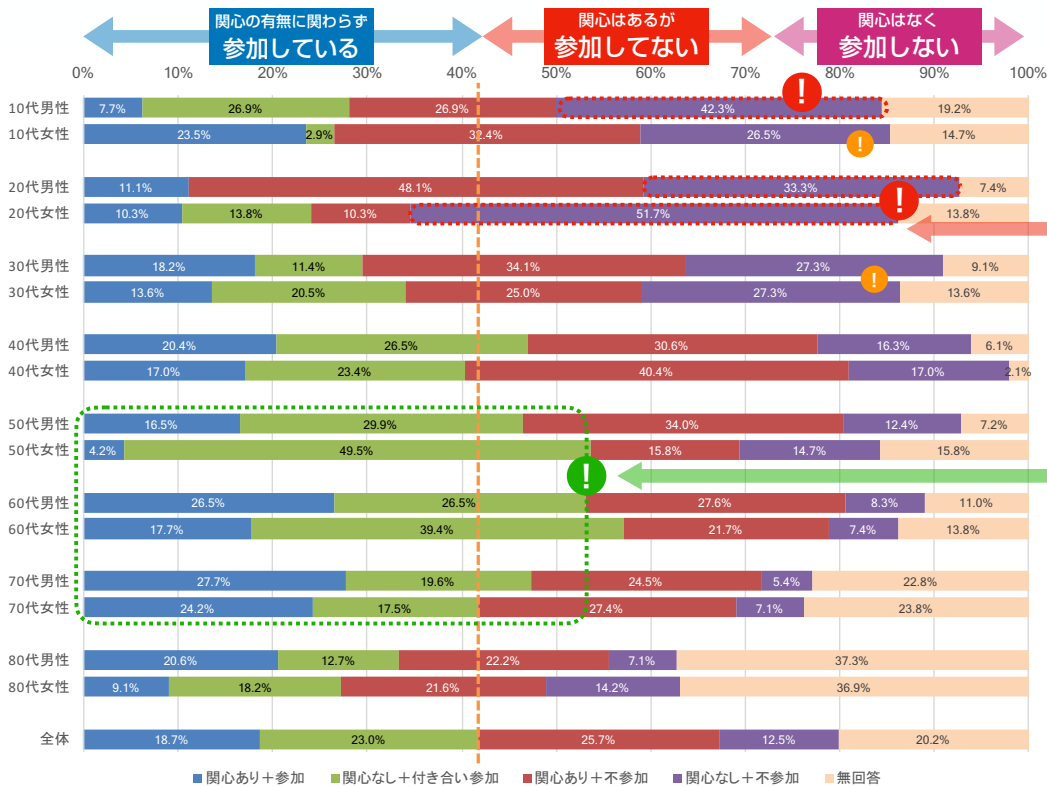
年代別インターネット利用における使用機器



- インターネットを利用しているのは全体の約4割。
- ただし**40代以下は約9割**がインターネットを利用。
(50代でも約7割)
- 大半が**スマホ・携帯**で利用しており、若い世代ほどその割合は高い。
- 20代以下は**6割以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での
 情報伝達の方が効果的?!

地域活動への関心



【注意！】
10～30代は、「関心は無く、参加したいと思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

20代女性：51.7%
(全世代で1位)
10代男性：42.3%
(同2位)
20代男性：33.3%
(同3位)

現状は
50～70代
が頑張っているで回っている状態。

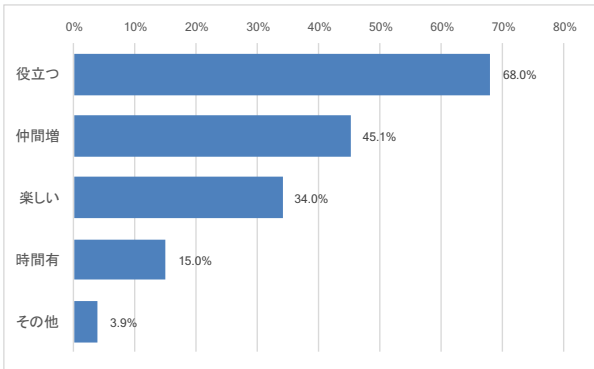
【女性】 10代 (32.4%)
30代 (25.0%)
40代 (40.4%)

【男性】 20代 (48.1%)
30代 (34.1%)
40代 (30.6%)
50代 (34.0%)

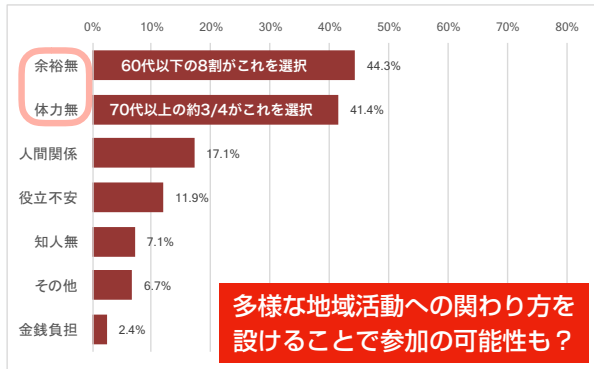
必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではない
「関心があっても参加していない」割合が高い世代には、その理由を探ることが大切！

地域活動への関心 (それぞれの理由) ※複数回答

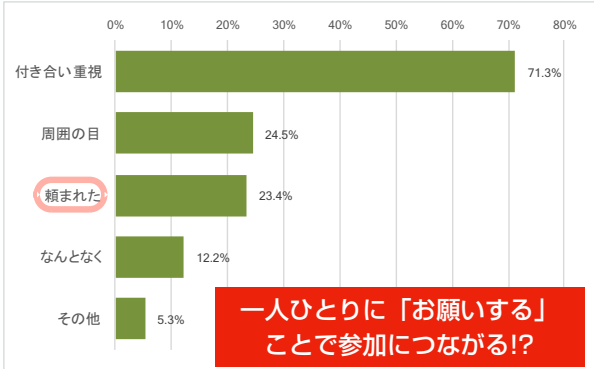
関心あり+参加の理由 (回答数153)



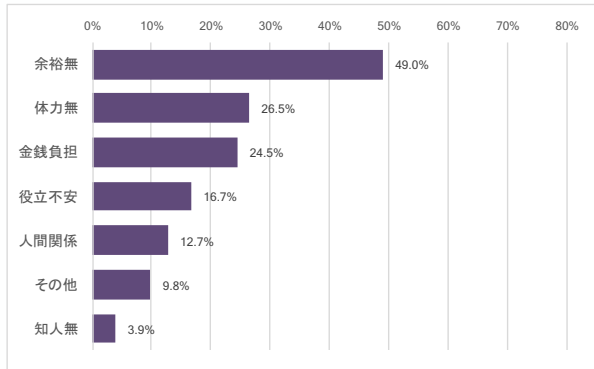
関心あり+不参加の理由 (回答数210)



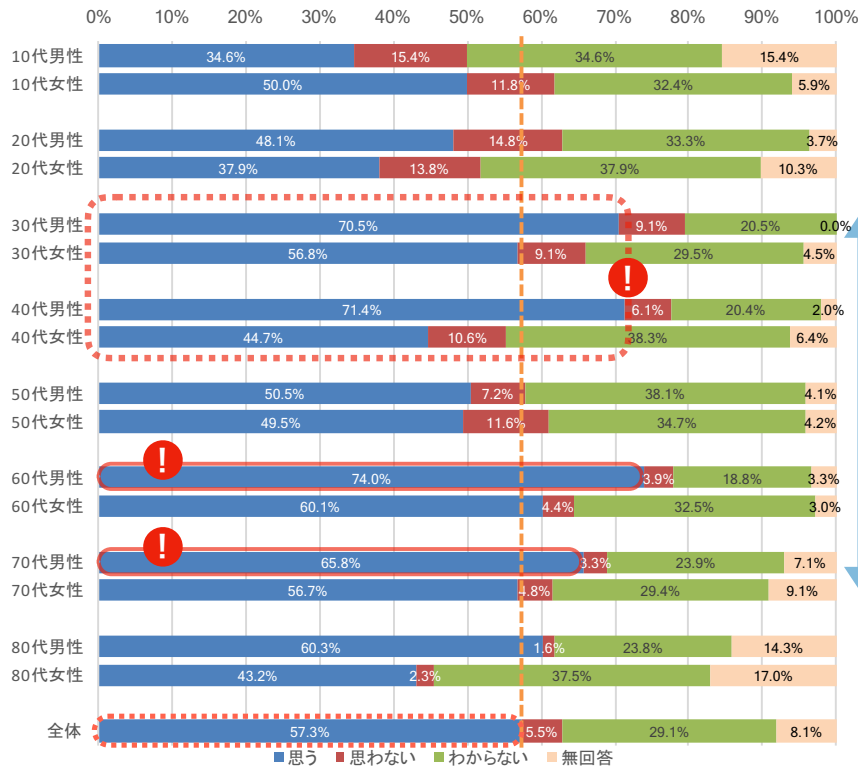
関心なし+付き合い参加の理由 (回答数188)



関心なし+不参加の理由 (回答数102)



女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別)



役員を担っている世代 (60代男性) は「必要」と考えている割合は2/3を超えている。

+

30・40代男性は「必要」という割合が7割

||

お互いにその気はある

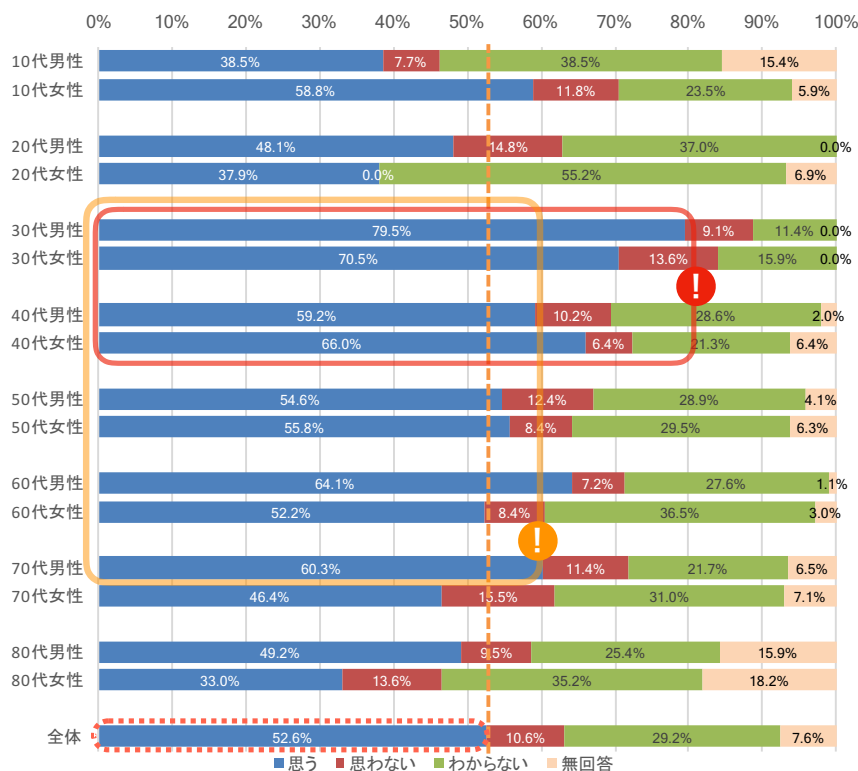


声を反映させる場・機会の充足が求められている!

必要性を感じている世代

地域全体では6割近くが「必要」と考えている。

定住受入の必要性 (年代別×男女別)



次の世代は強く定住受け入れを求めている!

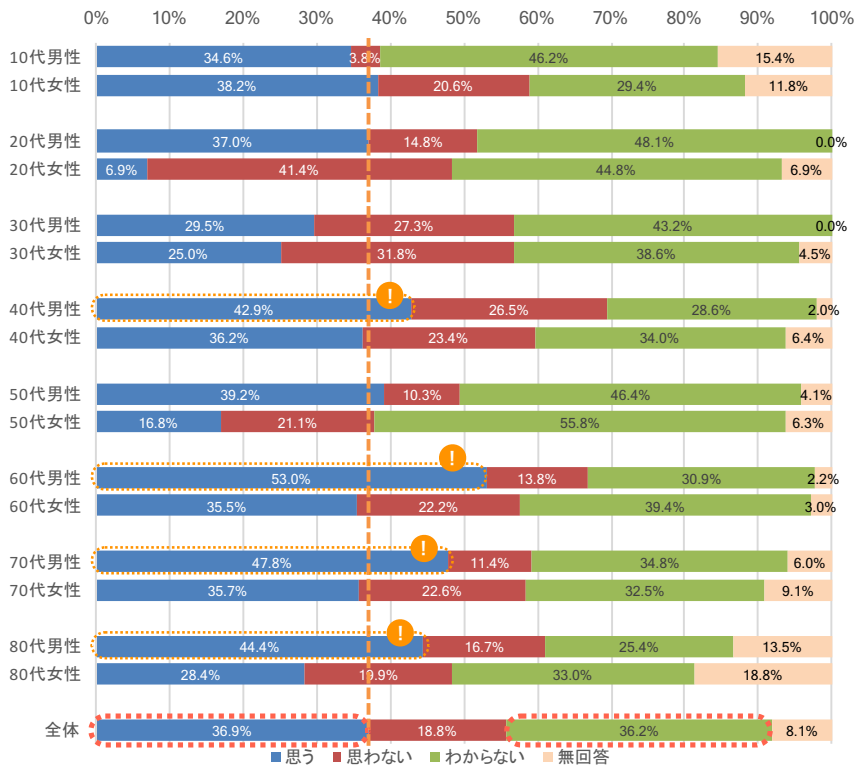


30・40代は2/3以上が「必要」と考えている

30~70代は半数以上が「必要」と考えている

地域全体では半数以上が「必要」と考えている。

他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)



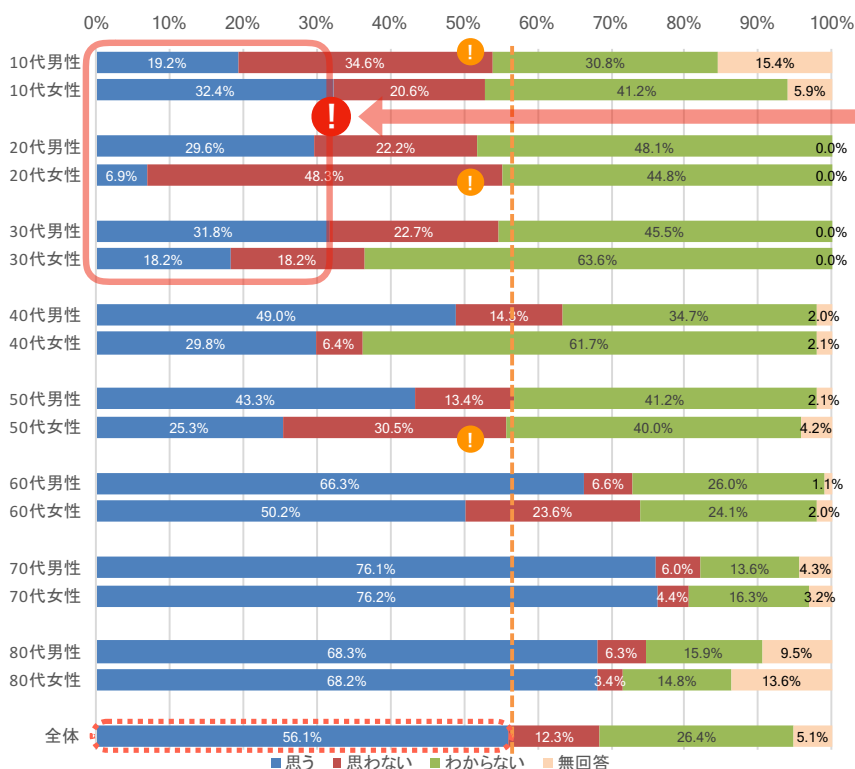
若年層及び女性は
「わからない」
「必要とは思わない」
という回答が半数以上



「必要」と考えているのは
40代男性と60代
以上の男性のみ。

地域全体では1/3以上が「わからない」と回答。
「必要」という考えもほぼ同じ割合。

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)

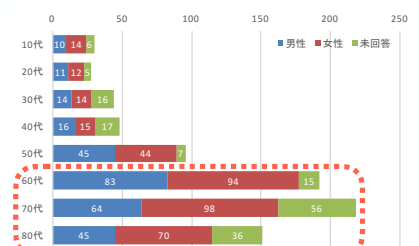


10代～30代は地区平均
よりもかなり低い

人口減少を招く出生率の低下は、20～30代女性の人口に大きく影響される。

「住み続けたいと思わない」と回答した割合が極端に高い世代

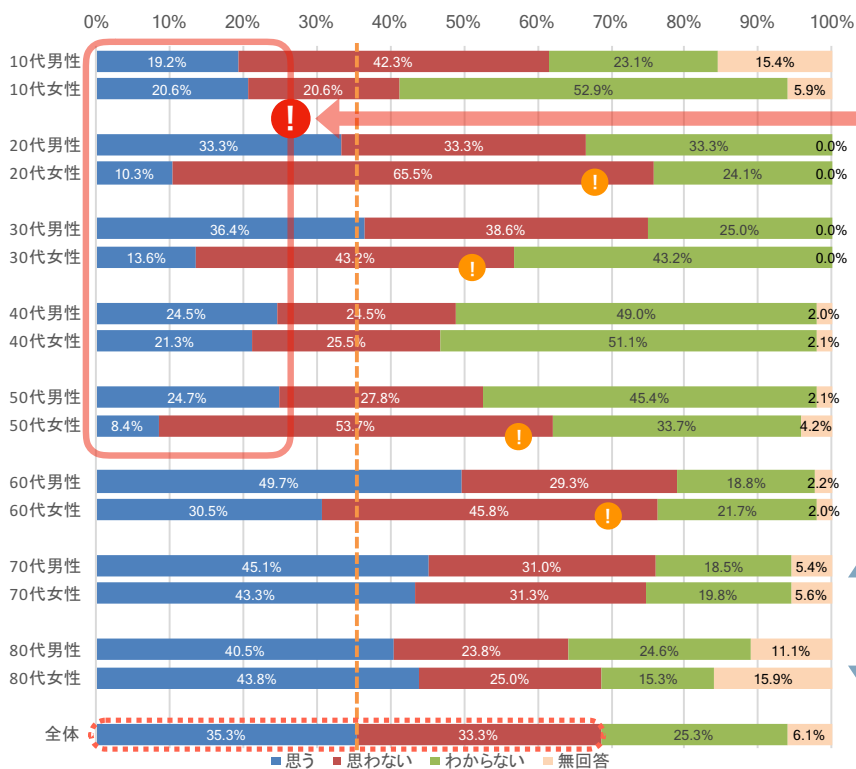
20代女性 (48.3%)
10代男性 (34.6%)
50代女性 (30.5%)



多数派の意見が
色濃く反映され
た結果

地域全体では半数以上が「住み続けたい」と思っているが...

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ (年代別×男女別)



50代以下は「住み続けてほしい」と回答した割合は3割以下

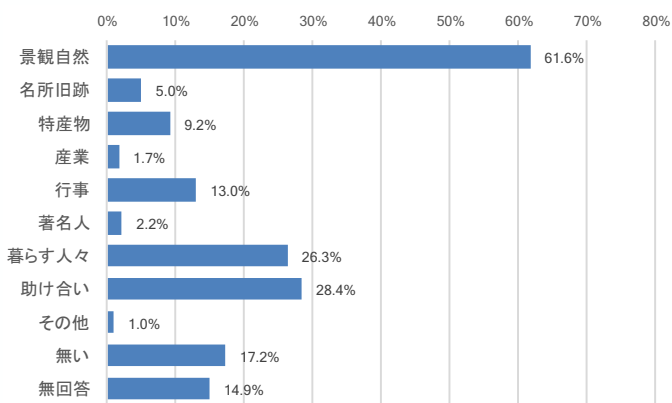
20~60代女性は「住み続けてほしいとは思わない」と回答した割合が極端に高い

「住み続けてほしい」が多い世代

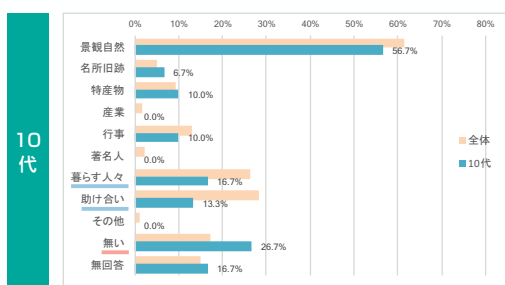
地域全体では「住み続けてほしい」「思わない」がほぼ同じ割合

誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

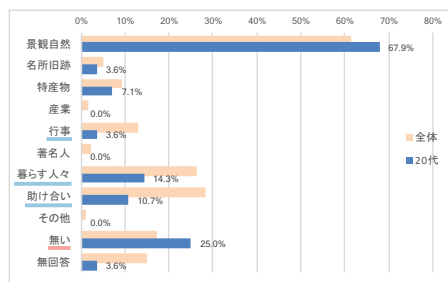
地区全体 (複数回答)



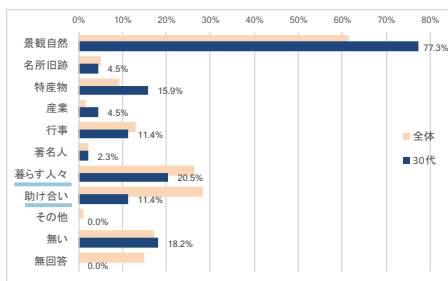
— 地区平均よりも高い
— 地区平均よりも低い



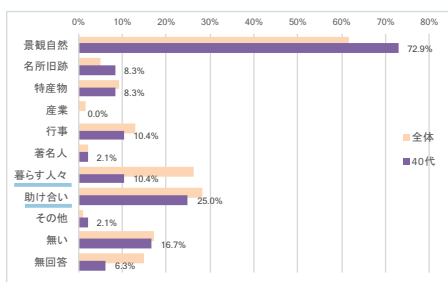
20代



30代

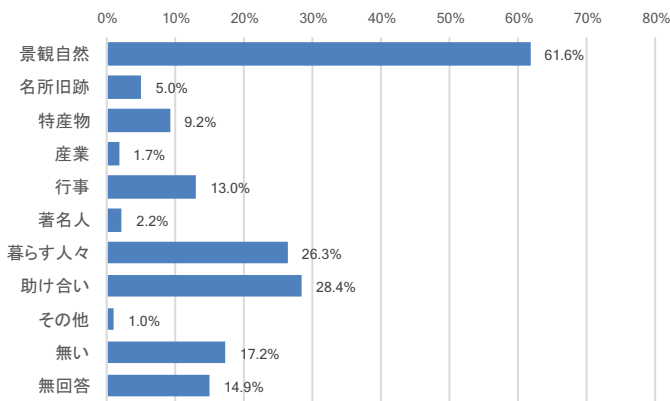


40代

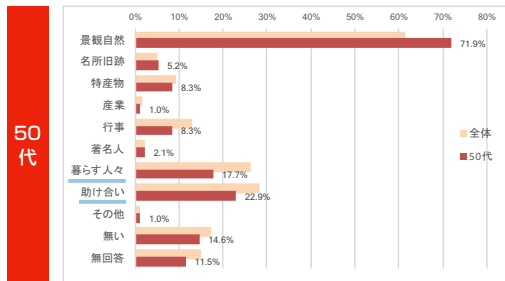


誇りに思う地域資源は何か (50代~)

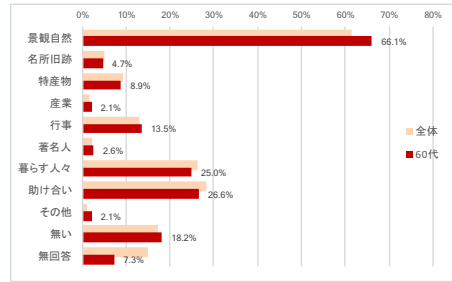
地区全体 (複数回答)



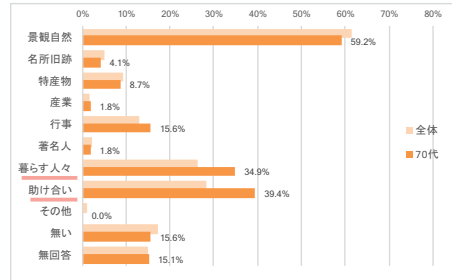
— 地区平均よりも高い
— 地区平均よりも低い



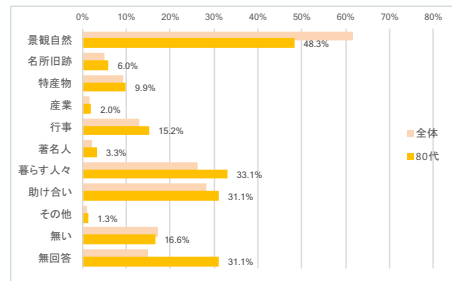
60代



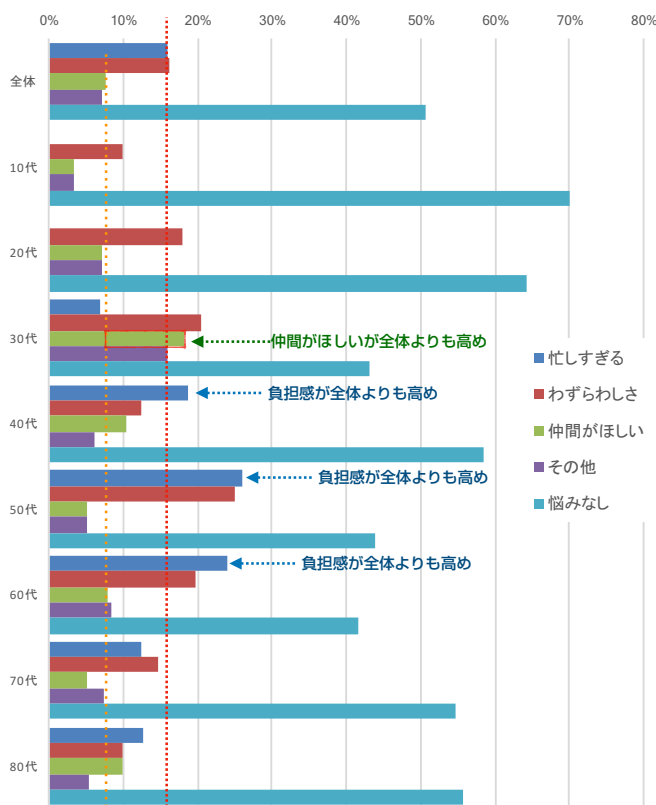
70代



80代

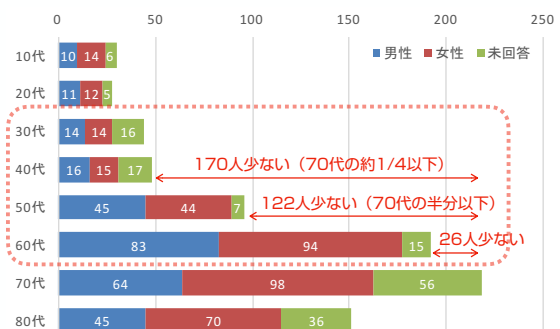


近所づきあいでの悩み



- 全体の半数が「悩みなし」
- 40~60代は「忙しすぎる」という悩みが、30代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりも高い。
- 20・30代及び50・60代は「わずらわしさ」を感じる割合が高め。

人は減っているのに、役割・仕事量が変わってなければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなるのでは？

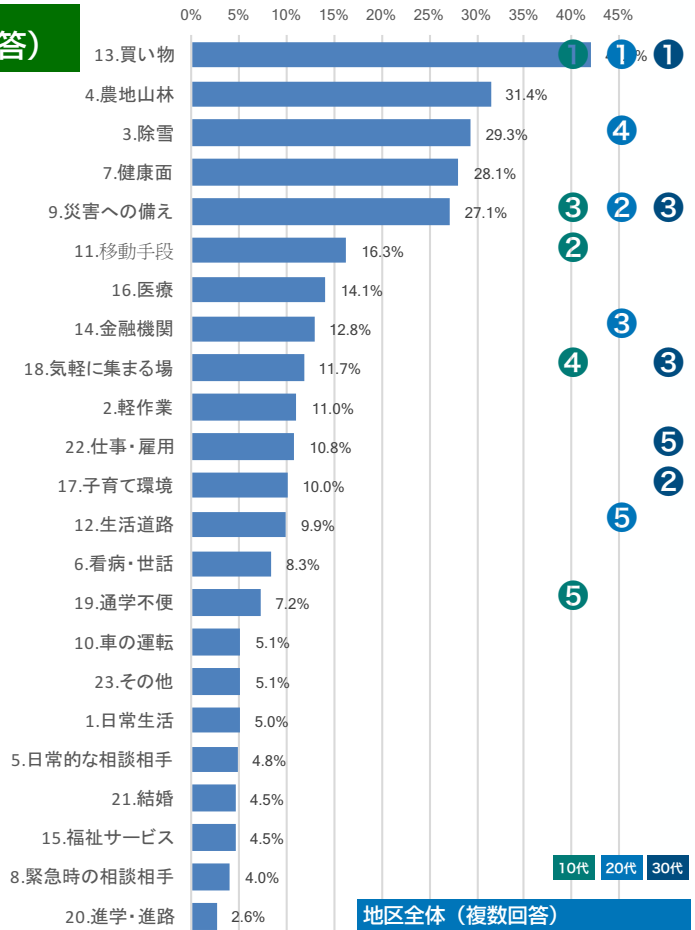


暮らしの中の困りごと（複数回答）

10代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	56.7%
2	買い物・通院などの移動手段（交通手段）	30.0%
3	災害への備えや避難	26.7%
4	仲間と気軽に集まる場所がない	23.3%
5	学校が遠く、通学が不便である	20.0%

20代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	60.7%
2	災害への備えや避難	28.6%
3	身近に預貯金を引き出せる金融店舗がないこと	25.0%
4	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	21.4%
5	生活道路などの環境整備に関すること	17.9%

30代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	56.8%
2	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	34.1%
3	仲間と気軽に集まる場所がない	27.3%
	災害への備えや避難	27.3%
5	仕事・雇用	25.0%

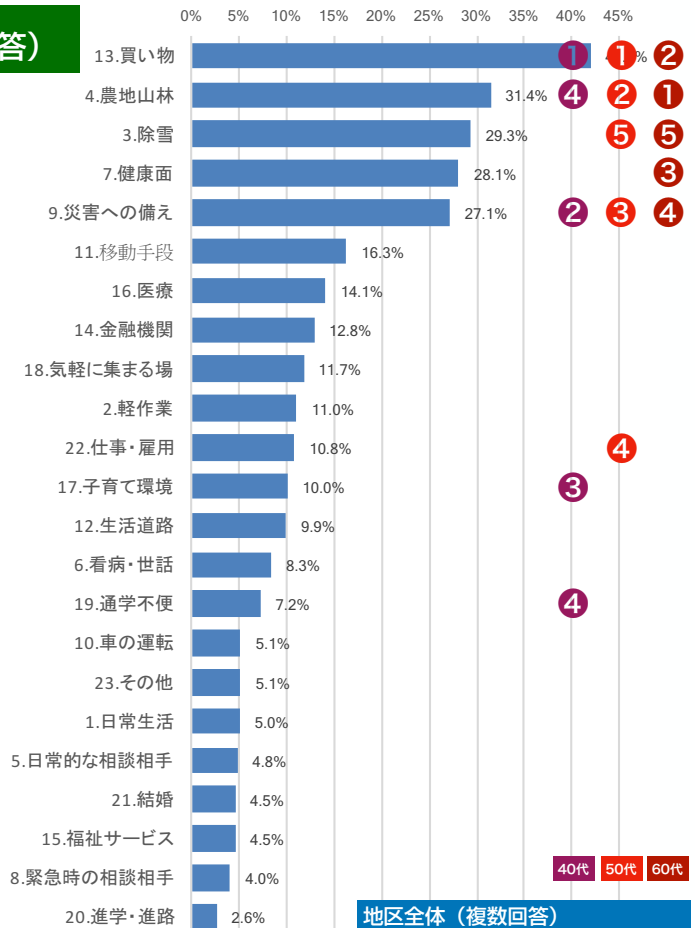


暮らしの中の困りごと（複数回答）

40代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	37.5%
2	災害への備えや避難	27.1%
3	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	25.0%
4	農地、山林の維持管理	20.8%
	学校が遠く、通学が不便である	20.8%

50代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	47.9%
2	農地、山林の維持管理	37.5%
3	災害への備えや避難	29.2%
4	仕事・雇用	28.1%
5	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	26.0%

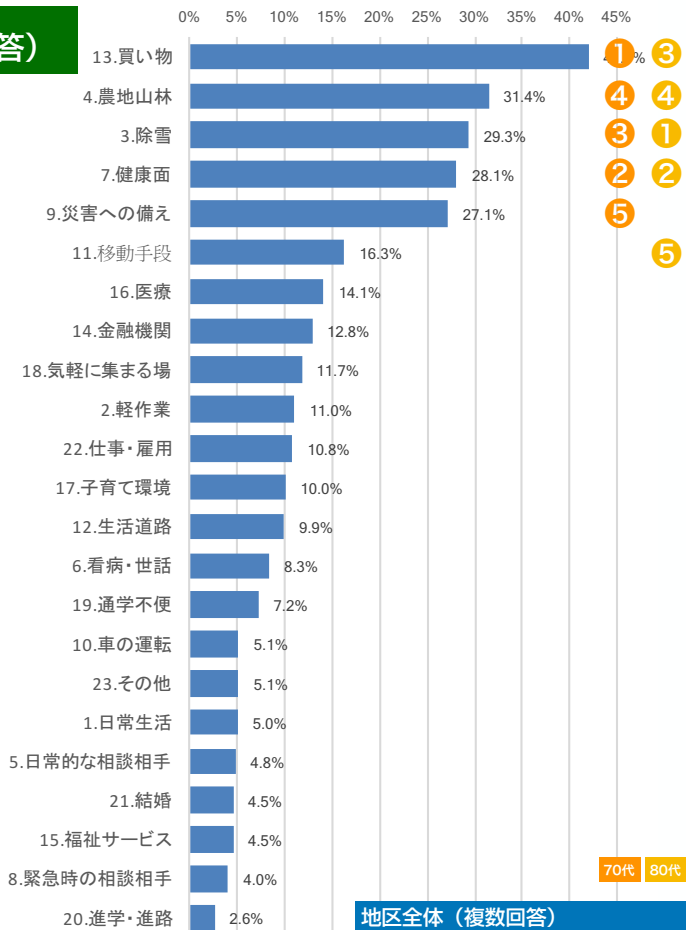
60代		
1	農地、山林の維持管理	46.4%
2	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	41.7%
3	健康面への不安がある	30.2%
4	災害への備えや避難	29.7%
5	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	27.6%



暮らしの中の困りごと（複数回答）

70代		
1	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	37.6%
2	健康面への不安がある	35.8%
3	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	33.0%
4	農地、山林の維持管理	32.1%
5	災害への備えや避難	26.1%

80代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	44.4%
2	健康面への不安がある	42.4%
3	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	36.4%
4	農地、山林の維持管理	29.1%
5	買い物・通院などの移動手段（交通手段）	27.2%



暮らしの中の困りごと（まとめ）

第1位 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 41.9%

ほぼすべての世代でトップ →地域全体で共通する困りごと

第2位 農地や山林の維持管理のこと 31.4%

40代以上で上位にランクイン（60代：第1位／50代：第2位）
→農地継承に直面している世代は特に困っている

第3位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 29.3%

高齢世代は上位にランクイン（80代：第1位／70代：第3位）
→20・50・60代もランクイン…除雪の担い手不足の懸念か？

第4位 健康面への不安がある 28.1%

60代以降になると上位にランクイン（70・80代：第2位）

第5位 災害への備えや避難 27.1%

ほぼすべての世代でランクイン →地域全体で共通する困りごと

暮らしの中の困りごと (まとめ)

全体での順位は高くはないが、若者・中堅世代特有の困りごと

第9位 仲間と気軽に集まる場所がない 11.7%

10・30代のみ上位にランクイン (10代：4位/30代：3位)

第11位 仕事・雇用 10.8%

20・30・50代は上位にランクイン

第12位 少子化による遊び相手の確保など子育て環境 10.0%

30・40代のみ上位にランクイン (30代：2位/40代：3位)

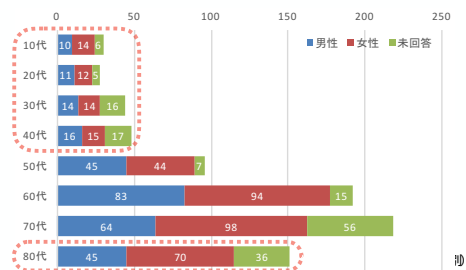
第15位 学校が遠く、通学が不便である 7.2%

10・40代で上位にランクイン →親世代にとっても困りごと

特に注意すべき80代以上の困りごと

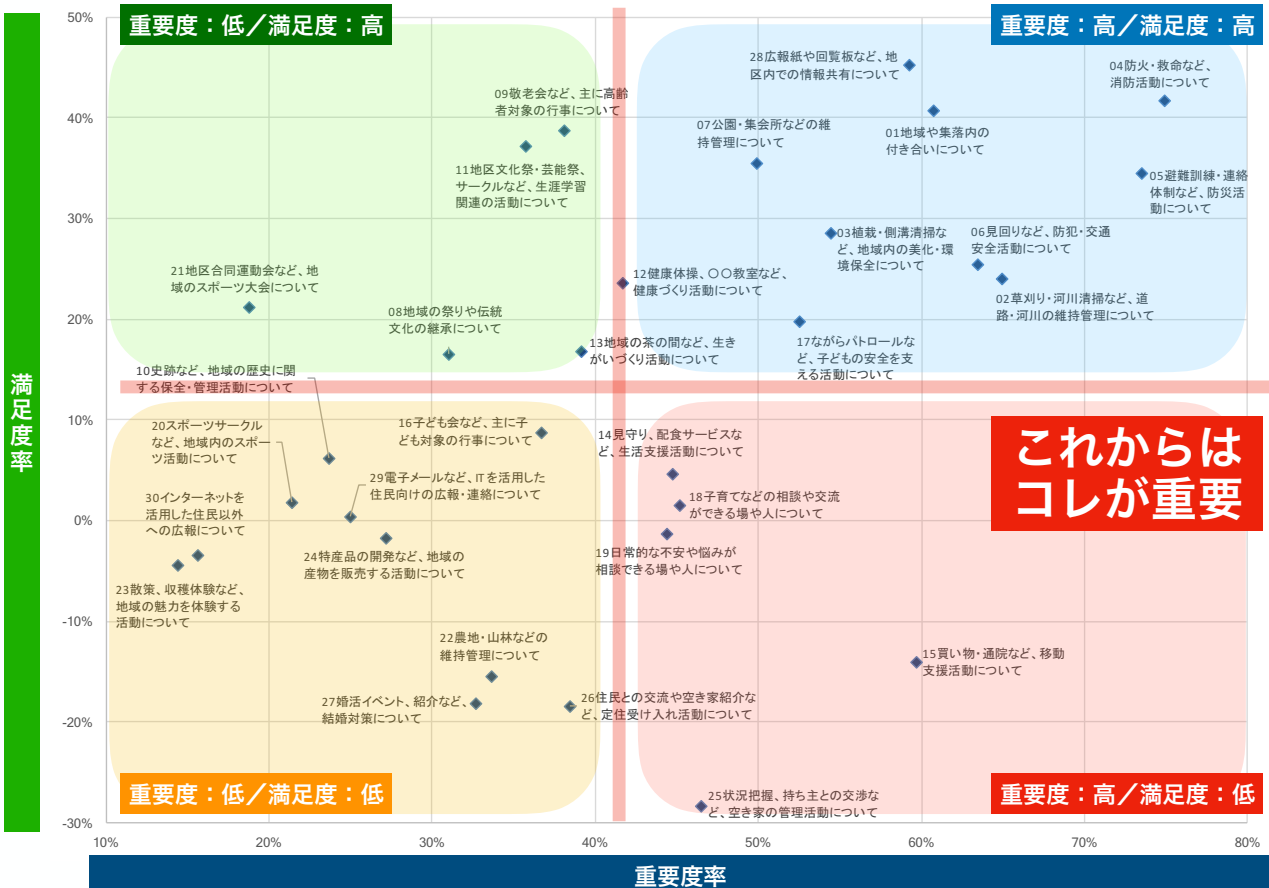
第6位 買い物・通院などの移動手段 (交通手段) 16.3%

10・80代のみ上位にランクイン

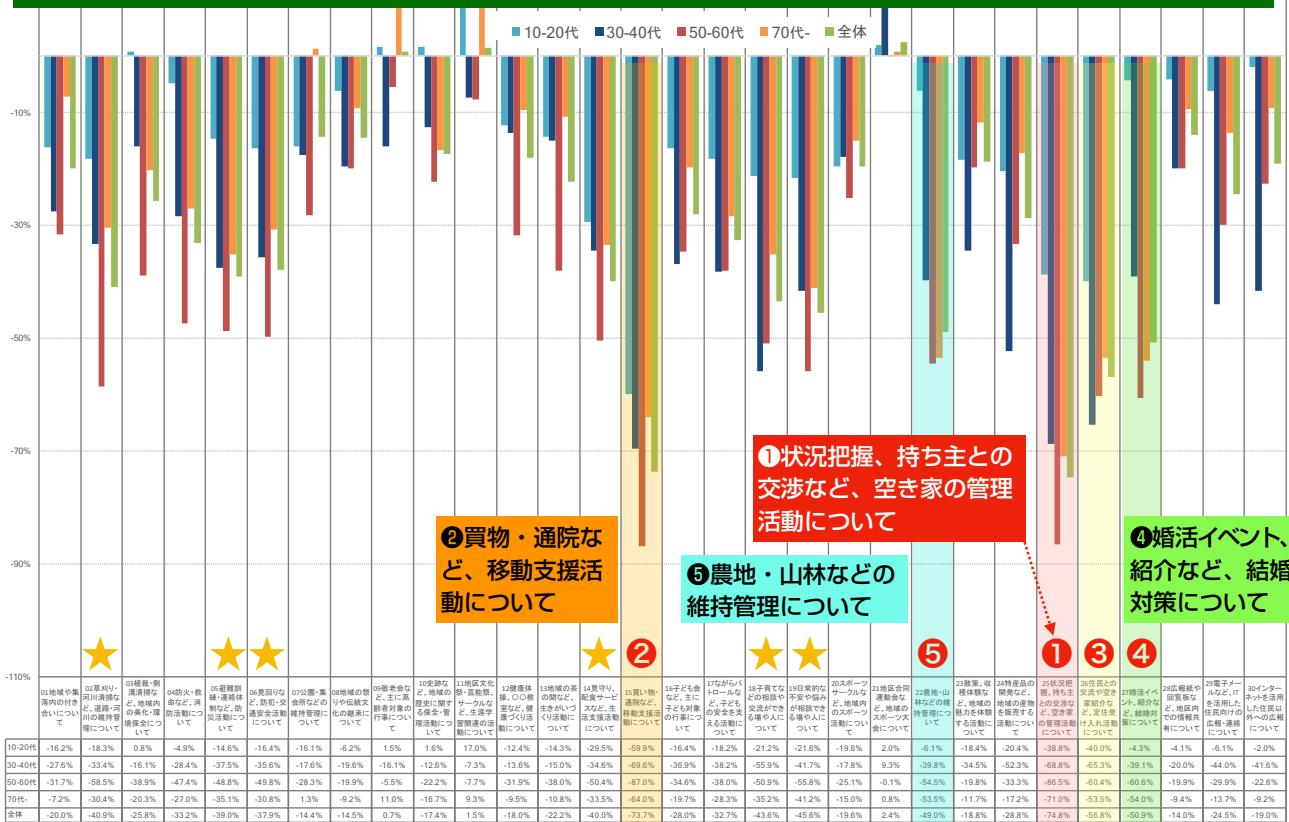


10~40代や80代以上など、多数派ではない世代の意見も丁寧に扱うことが重要。

取り組みの満足度と重要度



取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）



※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある（＝現状では満足しておらず、これからは重要だと思う）項目

③住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動について

取り組みの満足度と重要度の評価（まとめ）

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

① 状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動について

50代以上はこの必要性を強く感じている。

② 買物・通院など、移動支援活動について

すべての世代でこの必要性を強く感じている。

③ 住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動について

30代以上（特に30～40代）がこの必要性を感じている。

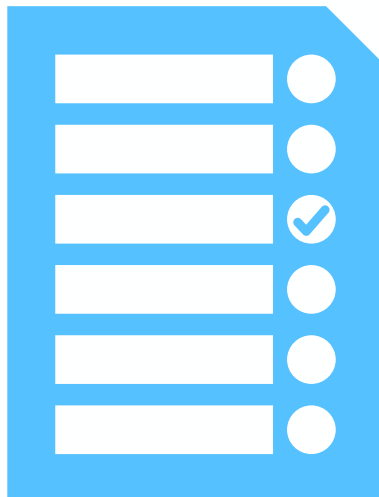
④ 婚活イベント、紹介など、結婚対策について

50代以上がこの必要性を強く感じている。

⑤ 農地・山林などの維持管理について

50代以上がこの必要性を強く感じている。

◎将来を見据え、力を入れていくべきだと考えられている項目



【30～60代が重要だと思っているもの】

★草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理について

★避難訓練・連絡体制など、防災活動について

★見回りなど、防犯・交通安全活動について

★見守り、配食サービスなど、生活支援活動について

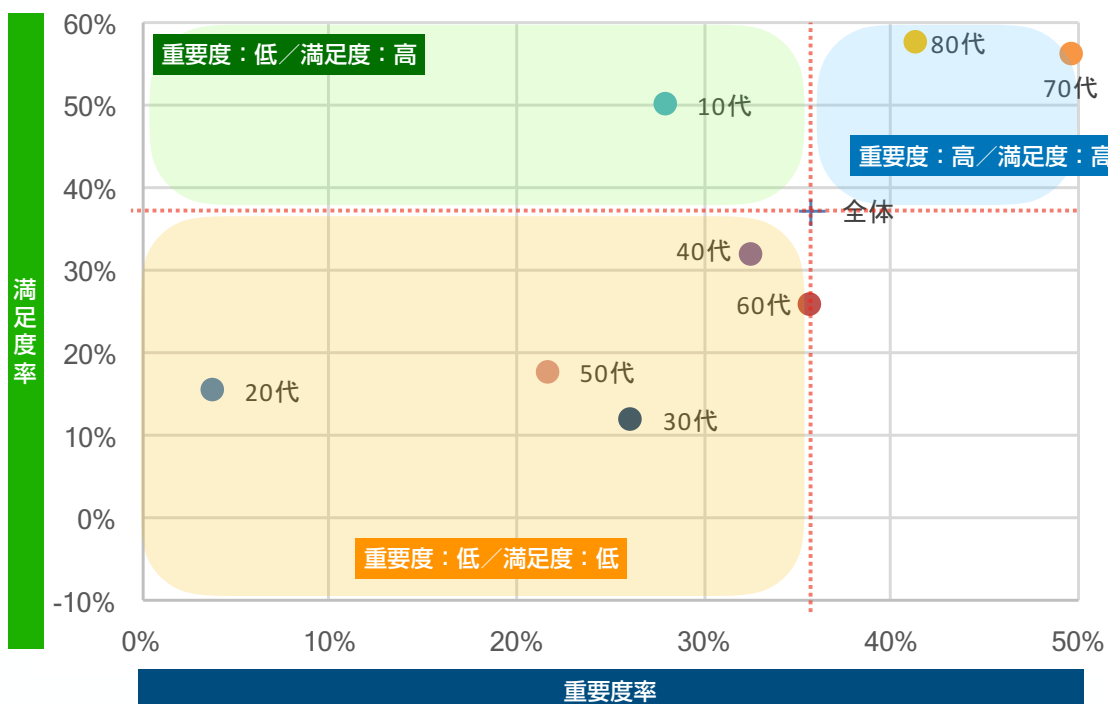
★日常的な不安や悩みが相談できる場や人について

【30～40代が重要だと思っているもの】

★子育てなどの相談ができる場や人について

(参考)

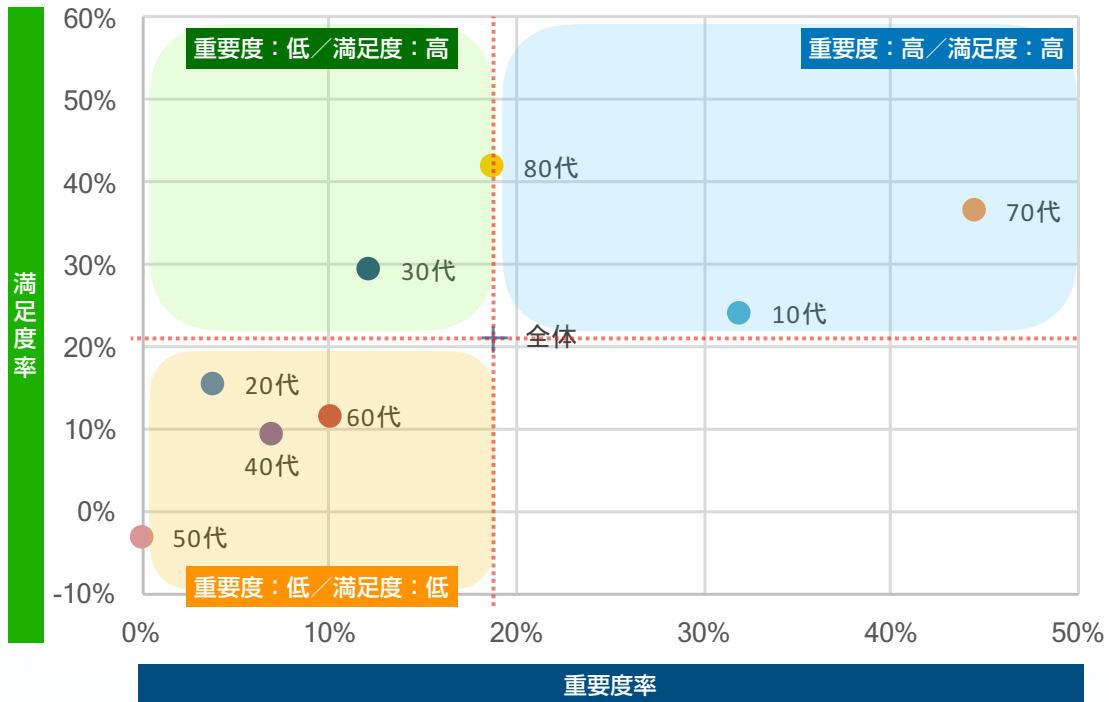
11 地区文化祭・芸能祭、サークルなど、生涯学習関連の活動についての満足度と重要度



10代（子ども世代）と70代以上（高齢世代）は満足度・重要度は高めの傾向

(参考)

21 地区合同運動会など、地域のスポーツ大会についての満足度と重要度



10・30代（親子世代）と70代以上（高齢世代）は満足度・重要度は高めの傾向

アンケート結果から見えるポイント①

☑農業従事者の98.9%、漁業従事者の96.3%が60代以上。

➡ 継業への着手は待った無し!!

☑80代になると車を運転する人の割合が減少。（70代→80代：男性は30.5%、女性は48.6%減少）

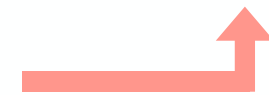
- ▶ 日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加していく。



☑高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識されている。

- ▶ すでに80代の困りごとの上位には「買い物・通院などの移動手段（交通手段）」が上がっている。
- ▶ 今後取り組むべき重要テーマとしても第2位に移動支援が上がっている。

➡ 地域の人口構成を勘案すると、移動支援はすぐに着手すべき課題



☑全体の半数以上がインターネットを利用

- ▶ 50代以下は約7割（40代以下は9割）がインターネットを利用しており、大半がスマホ・携帯での利用。

➡ 50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

アンケート結果から見えるポイント②

☑必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではないではない。

- ▶ 女性は10、30～40代が、男性は20～50代が、「関心はあるが参加していない」の割合が高い。
- ▶ 「関心あり+不参加」の理由の第1位は「余裕が無い」。こう回答した60代以下の約8割がこれを理由にあげている。
- ▶ 「関心なし+付き合いで参加」の理由では、第3位に「頼まれた」が来ている。
- ▶ 現状は50～70代の方々が頑張っているので地域活動が回っている状態。

多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性があるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

☑10～30代は、地域活動に「関心は無く、参加したいとも思わない」の割合が他の世代に比べて極端に高い！

- ▶ この世代（10～30代）は、現在の60～70代と比較すると絶対数が少ない。そんな状況下で無関心・不参加層の割合が高いことは、非常に大きな問題。

こうした世代の人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは？

アンケート結果から見えるポイント③

☑役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと思っている。

- ▶ 役員を担っている世代（60代男性）は2/3が「必要」と考えている。
- ▶ 30・40代男性は「必要」という割合が7割。

お互いにその気はある！声を反映させる場・機会の充足・工夫が必要。

☑地域全体の半数以上が、移住・定住者の受け入れが必要と考えている。

- ▶ 30～70代は半数以上が、中でも30・40代は2/3以上が「必要」と考えている。

次の世代は強く定住受け入れを求めている！

☑他地域との交流の必要性については、地域全体では1/3以上が「わからない」。ただし「必要」という考えもほぼ同じ割合。

- ▶ 40代男性と60代以上の男性は、「必要」と考えている割合が高い。
- ▶ 若年層及び女性は「わからない」「必要とは思わない」という回答が半数以上。

必要性は薄々感じているが、今ひとつ実感がないので「わからない」という人が多い状況？！

アンケート結果から見えるポイント④

☑地域全体では半数以上が「住み続けたい」と思っているが、若年層及び女性はその割合が地域平均よりもかなり低い。

- ▶ 中でも、20代女性、10代男性、50代女性は、「住み続けたいと思わない」と回答した割合が極端に高い。

☑地域全体では、「住み続けてほしい」「思わない」がほぼ同じ割合。

- ▶ 50代以下は「住み続けてほしい」と回答した割合は3割以下。
- ▶ 20～60代女性は「住み続けてほしいとは思わない」と回答した割合が極端に高い。

☑若年～中堅世代は「地域への誇り」が希薄な傾向

- ▶ 10・20代は、誇りに思う地域資源は「無い」と回答している割合が地域平均よりも高い。
- ▶ 40代以下は、「助け合いなどの社会関係」を誇りに思う地域資源としてあげる割合が、地区平均よりも低い。

次世代が地域への誇り・愛着を持ち、将来への希望を見いだせるような地域づくりが不可欠。

アンケート結果から見えるポイント⑤

☑近所づきあいについては、半数が「悩みなし」。

- ▶ ただし、40～60代は「忙しすぎる」という悩みが、30代は「仲間がほしい」という悩みが、全体平均よりも高い。

人は減っているのに、役割・仕事量が変わっていなければ、負担感が増すのは当然。今後、さらに人の数は減っていく。このままでは回らなくなる可能性大。

☑暮らしの中の困りごとトップ5は、

- ①コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便
- ②農地や山林の維持管理のこと
- ③屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪
- ④健康面への不安
- ⑤災害への備えや避難

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

☑今後、重点的に取り組むべきテーマトップ5は、

- ①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動
- ②買物・通院など、移動支援活動
- ③住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動
- ④婚活イベント、紹介など、結婚対策
- ⑤農地・山林などの維持管理

ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。（特に若年層）若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。